

四 ゆめしろくろ

原曲：六十年目の東方裁判 〱 Fate of Sixty Years

桜花之恋塚 〱 Flower of Japan

一心不乱に代わる代わる誰彼と沙汰を渡し

一世一代映す鏡

白か黒か堂々開帳

冥土に一人発つ寂しさを

縁繋ぎ過去に後始末

現在 未来 塗り潰しても

味気ないと言えなかった

水辺 流れるまま漂うだけの花びら一片に罪はありましようか

苦惱 潜ませでは二色も滲み混ざり溶け合って

善しも悪しも狂わされて濁る

命は夢虚ろなものだって

知りながらも永らえるなら

道説き教えるのが御役目

逆らって跳ね返って咲き続けるの

あなたは少し長く生きすぎた

一朝一夕積み重ねて変わるもの 変わらぬもの

一喜一憂 酌量無し

十の裁判恒例開廷

冥土に一人発つ寂しさを

癒し 祀り 清く美しく

現在 未来 塗り潰しても

遣る瀬無いと突き放していたよ

気風張^{きじふ}って面食ら^きって宵の丈

完全無欠に成り代わろうだなんて

萎れないってだけでは到底役者不足

不敵 無邪気 撒き散らして笑う

いつしか夢現も曖昧で

眠りの中目覚めるのなら

慈悲無く線を引いて区切りましょう

膨らんだ頬を抓って痛み気付

胡乱 虚像も役に立たない

命は夢虚ろなものだって

知りながらも繰り返すなら

道説き教えるのが御役目

逆らって跳ね返って咲き続けるの

あなたは少し長く生きすぎた